令和６年１２月

旭中学校３学年保護者様

相模原市立旭中学校

令和６年度全国学力学習状況調査

結果と考察

【実施日】令和６年４月１８日（木）

【調査の目的】

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査対象】国・公・私立学校の中学校第３学年（全生徒）

【出題範囲】原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

【出題内容】

１．教科に関する調査（国語・数学）※下記(1)と(2)を一体的に問う。

（１） 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

（２） 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

２．生活習慣や学習環境等に関する質問調査

生徒質問調査：調査する学年の生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【表の見方】

平均正答数	生徒の正答数の平均
平均正答率	それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばり度合い）を表す数値。 標準偏差０とは、ばらつきのないことを意味する。

R6 全国学状【中学校国語】
相模原市立旭中学校

-国語編-

令和６年度の結果分析と考察

令和６年度全国学力学習状況調査の結果から本校生徒の傾向を分析、考察した。

次項以降に記してあるが今年度の出題は中学校国語８１指導事項の中から１５指導事項に関する問題が設定され、中学２年生までの既習事項である５６指導事項に該当する設問となった。出題形式は・選択・短答・記述である。

問題別調査結果（別添）において、全国、神奈川県と比べて本校生徒の正答率はどの問題でも高い結果となった。

一方、無解答率では下回る結果であった。全国順位（国語）でみると、神奈川県は１１位（平均正答率５９％）であったのに対し、本校は６５％であった。

	生徒数	平均正答数	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
相模原市立旭中学校	260	9.8 / 15	65	10.0	3.1
神奈川県（公立）	59,476	8.8 / 15	59	9.0	3.4
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

指導事項と正答率からみる結果分析

◇…比較的できている点　◆…課題のみられる点　（ ）内は問題番号

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇文の成分の順序や照応について理解できている。（３二）

◇文章の中で用いられている表現の技法について理解することができている。（４一）

情報の扱い方に関する事項

◇情報と情報との関係について、意見と根拠の関係を理解できている。（１三）

我が国の言語文化に関する事項

◇行書の特徴を理解することについては、これまでより改善された。（４三）

◆文脈に即して漢字を正しく書くことができる。（３三）

話すこと・聞くこと

◇必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。（１一）

◆資料を用いて、自分の考えを分かりやすく伝わるように話す問題に無解答が見られる。（１二）

◇話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができる。（１四）

書くこと

◇目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（３一）

◆文の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができている。（３四）

読むこと

◇文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈できる。（２一）

◇文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。（２三）

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約する。（２四）

※無解答が目立った問題に関しては、本校生徒のみならず、全国、神奈川県ともに無解答率が高かった。自らの考えをまとめる、相手に伝わるように表現することに対しての苦手意識は、国語科教育において近年言われ続けている課題である。自己表現の機会や自由度が増え、自己表現をすることに抵抗感が低くなってきているが、それを表現するスキルが伴っていないと受け取れる。日常生活で身近な他者だけでなく、周囲にいる他者全ての存在を意識することや、調和を図ること

が社会性の成長につながっているという意識も持たせたい。

【無解答が見られた問題】

1二　3．8％　資料を用いて、自分の考えを分かりやすく伝わるように話すことができる。

1四　4．2％　話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。

2四　5．0％　目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。

3三　9．6％　文脈に即して漢字を正しく書くことができる。

3四　11．2％　短歌の内容について、描写を捉えることができる。

第２章　第１節　国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で**正確に理解し適切に表現する資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

（１）　社会生活に必要な国語について、その性質を理解し適切に使うことができるようにする。

（２）　社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

（３）　言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。　中学校学習導要領国語編（平成２９年）

と、中学校学習指導要領にあるように、今後も継続して国語科の指導目標として捉え、改善できる方策を模索していく必要がある。また、国語の授業だけでなく日常の学校生活の中で育んでいく力だと捉える。

実態の把握と具体的手立て

〈生徒の実態〉

生徒は国語で学んだことは日常生活や社会（生涯）で役に立つと思っているが、資質・能力を意識して学習している実感が伴っていない。

〈具体的な手立て〉

・単に文章を読むだけでなく、読んだ内容を深く考え、自分の言葉で表現する機会と活動をする。

・情報を収集し、整理し、判断する活動をする。

・授業で学ぶ知識および技能が、実生活でどのように活かせるのか、生徒自身が実感できるようにする。

・自分の考えを相手に伝える場面や、様々な情報を読み解く活動をする。

【知識及び技能】

意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。

○考えとともに考えの拠り所となる事例が示されているかどうかを確かめるなど、話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにすることが必要である。

○各表現技法がどのような特徴を持つ表現の技法なのかを名称と結び付けて確認し、学習（詩や短歌・俳句を作る）で使えるようにする。

○抽象的な概念である表現技法を、生徒が身近に感じられるような具体的な例（日常会話など）や文学作品からの引用などを用いてその効果や使い方を具体的に示す。

【思考力・判断力・表現力】

読むこと

○概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。

書くこと

○自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要である。

R6 全国学状【中学校数学】
相模原市立旭中学校

-数学編-

令和６年度の結果分析と考察（総括）

【調査結果についての概要】

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
相模原市立旭中学校	260	9.4 / 16	59	10.0	3.9
神奈川県（公立）	59,531	8.7 / 16	54	9.0	4.2
全国（公立）	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

問題別調査結果（別添）において、全国、神奈川県と比べて本校生徒の正答率はほぼすべての問題で高い結果となった。一方、無解答率では下回る結果であった。全国順位（数学）でみると、神奈川県は８位（平均正答率５２．５%）であったのに対し、本校は５９%であった。

この結果から、本校生徒の数学の理解度や習熟度は非常に高く、また苦手意識は低いのではないかという仮説が立てられる。

指導事項と正答率からみる結果分析

【今年度の課題等（知識及び技能)】◇…比較的できている点　◆…課題のみられる点　（　）内は問題番号

数と式に関する事項

◇連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができている。(１)

◇等式を目的に応じて変形することができている。(２)

◇問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができている。(６（１))

図形に関する事項

◇回転移動について理解できている。(３)

◇事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができている。(９（２))

関数に関する事項

◇一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解できている。(４)

◇二つのグラフにおけるｙ軸との交点について、事象に即して解釈することができている。(８（１))

◇グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができている。(８（３))

データの活用に関する事項

◆簡単な場合について、確率を求めることができている。(５)

◆与えられたデータから最頻値を求めることができている。(７（１))

◇複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができている。(７（３))

【今年度の課題等（思考・判断・表現)】

数と式に関する事項

◇目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。(６（２))

◇統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができる。(６（３))

図形に関する事項

◇筋道を立てて考え、証明することができている。(９（１))

関数に関する事項

◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。（８（２））

データの活用に関する事項

◇複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。（７（２））

【無解答が目立った問題】

６（２）　１８．５％

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

６（３）　２４．６％

統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができる。

７（２）　２９．２％

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

８（２）　２１．５％

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

９（１）　２４．６％

筋道を立てて考え、証明することができる。

無解答が目立った問題に関しては、本校生徒のみならず、全国、神奈川県ともに無解答率が高かった。無回答率が高かった問題はいずれも評価の観点は思考・判断・表現で、問題形式は記述式の問題であった。記述式の問題は、(a)事柄・事実の説明(b)方法・手順の説明(c)理由の説明の３つのタイプがあり、自分の考えを数学的に表現することに対しての苦手意識は、算数・数学科教育において近年言われ続けている課題である。

第２章　第１節　数学科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2)　数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，**数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う**。

(3)　数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

中学校学習導要領数学編（平成２９年）

と、中学校学習指導要領にあるように、今後も継続して数学科の指導目標として捉え、改善できる方策を模索していく必要がある。また、数学の授業だけでなく他教科の授業や日常の学校生活の中で育んでいく力だと捉える。

相模原市立旭中学校
令和６年度全国学力学習状況調査結果　分析と考察
-生徒質問編-

令和６年度の結果分析と考察（総括）

令和６年度全国学力学習状況調査の本校生徒の生徒質問全６５項目の質問で、本校生徒の回答は、ほとんどの項目で県・全国の平均とかわらない結果〔令和６年４月時点の意識調査〕となった。また、成長期の心と身体を支える基本的な生活習慣が確立され、モラル（社会的倫理観や道徳観等）への意識が高いことがわかった。これらは、学校での教育のみならず、家庭教育や地域教育によって育まれたものである。心身共に健全な成長ができる安定した生活環境が地域教育の下支えがあることは、本校の強みとなっていると考える。

最近の社会傾向として、自己表現の自由度が増したと感じる。子供たちの身近にある SNS などで自由に発言したり、自己表現をしたりする機会が増えたと同時に、それに対する抵抗感は高くない。一方で、自己の考えを表現したり、思考を構築したりすることに苦手意識があり、本中学校区（全国的）の課題である「自己肯定感」は相変わらず高くないことがみてとれる。昨今、将来を思い描いたり自己を認める術を見つけたりすることはなかなか難しいと言われている昨今ではあるが、全国的な課題である「自己肯定感の向上」を引き続き今後の課題として捉え、教科指導だけでなく日々の学校生活の中で自分の良さに気づかせたり見つめさせたりするために働きかけたり、実践的イメージをさせたりして改善に努めたい。

学習面では、高い理解力や高い知識を持っていながら受動的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。与えられた課題に対して真面目に向き合い解決する力はあるが、自ら課題を見つけたり、自主的に取り組んだりといった主体性には課題がある。

また、深く考えたり、自分の意見や考えを表現したりするといった、自己表現の部分にやや課題を残したことは、今後の教育活動で改善に向けて注力しければならない。また、知識やスキルだけにとどまらず、より実践的な応用力を身につけられるように各教科で意識し、横断的な学習に取り組んでいきたい。これから求められることが多くなる「思考力」や「判断力」、「表現力」を高める取り組みを授業だけでなく、学校の活動全般で意識して講じていき、「実践」できるよう工夫していきたい。

【生活】（食事や睡眠）

「朝食」や「睡眠」等、基本的生活習慣への回答結果から、規則正しく安定した生活を送っている生徒が多いことがわかった。睡眠時間に関しての回答に少し幅があった。これは、習い事に通う生徒が多いことが原因と考えられる。中学校３年生であることを考えると学習塾に通うことで日によって就寝起床時間が変化しているものと思われる。

【スマートフォンの使用・ゲーム時間】

１日の中で学校の授業以外で ICT 機器を使用する時間への回答は様々であった。平日の動画視聴時間も多岐にわたったが、１時間以上２時間以内と４時間以上が最も回答が多かった。ゲーム時間に関する質問は、テレビゲーム、PC ゲーム、携帯式ゲーム、スマートフォンゲーム等を含むため何が正解とは言いにくい。ゲームに費やす時間と関係している。もしかしたらスマートフォンで、①ゲームをする時間と②動画を見る時間と③SNS に関する時間はそれぞれ別の時間と認識している可能性も否めない。しかし、端末使用に関してルール

が設けられている家庭がほとんどである。保護者も意識を高くして危機管理ができていることがわかり安心する結果となった。

【自分に関して】

『自分には、よいところがあるか』

・８割を超える生徒が肯定的な回答であった。この結果は全国、神奈川県と差はなかった。

『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。』

・「当てはまる」という回答が５割を超え、全国、県を大きく上回った。
これは、生徒と教員の関係が良好であることと、先生方が生徒一人一人を大切な存在として接していることがわかる結果となった。

『将来の夢や目標を持っていますか』では『どちらかといえば当てはまらない』という回答が１８％だった。これは、先行き不透明な社会の中に自分がどう関わっていきたいかとどう関わっていくかといった理想や想像がしにくい社会であることが背景にあると思う。

『人が困っているときは、進んで助けていますか』いう質問への回答が、肯定的な回答がほとんどで、これは道徳的意識が高いとか、人に対する優しさがあるとかそれだけにとどまらず、安心できる環境で過ごしたいという気持ちを示している。

『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対しては９６％の生徒がいけないことだという認識があることもわかった。いじめはあってはならないことであるが、なぜそうなのかという本質的な部分まで理解できるように取り組んでいきたい。

『困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。』という質問に関しては、「当てはまる」回答が県や全国より非常に高く、教師との良好な人間関係を示すと同時に、学校が安心できる居心地のよい環境であることがわかった。

『人の役に立つ人間になりたい』『学校に行くのは楽しい』『自分と違う意見について考えるのは楽しい』『友人関係に満足している』『普段の生活で幸せな気持ちになることがある』という質問へはほとんどが肯定的な回答であった。

全体を通して、学校が安心して過ごすことができる環境であることがわかった。一日の大半を過ごす学校が落ち着いて過ごせる場所であり続けるために取り組んでいく。

【学習】

『学習時間に関する』質問では、自主的に勉強に励む生徒が多く、学習意欲も高い。『計画的に学習をしているか』に関連して「学校以外での学習について」「休日の学習について」という質問では、よくあてはまると回答した生徒が全国、県共に下回り、学習については１・２年次の学習の理解度や習熟度に対する質問が多かった。ICT の活用についての質問では、回線の影響で有効に使用することができず、活用できていなかったことが顕著に表れた。ICT の有用性は認めてはいるが、使用できる環境整備が整っていないからか、ICT を活用しての学習に対して肯定的でない回答結果となったが、今年度は改善された、ICT 環境の効果が現れてくることを期待する。

１・２年次の学習が今に活きていると感じている生徒がほとんどで、自分の考えを深めたり、広げたりして自ら取り組んでいることもわかった。

国語の学習が大切であることを認識し社会に出てからの有効性は理解しつつも国語が好きではない傾向が強い。自らの意見や考えを構築することが苦手傾向にあることがわかった。これは本校だけの傾向ではなく全国的に似たような傾向ではあるのが昨今の現状である。

一方で数学や理科の学習へ進んで取り組んでいることがわかった。内容や問題に対して意欲的な回答が見られた。各教科に関しては国語／数学／理科／英語ともに、既習事項の積み重ねが今に活きていることを感じ、横断的に他教科に活きていることを感じることもできている。

学校で学んだことが将来のどこかで役に立つと思う回答が大変を占め、授業や学習に対して前向きな気持ちでいることもわかった。学習意欲に関しては高い。

【PC・タブレットの活用】

「PC（タブレット）」の活用に関しては、学習効率の有用性を感じているものの、活用の仕方や不備のある現状の環境に不満や不自由を感じている様子もうかがえた。

【学校生活】

『学級での話し合い』『道徳や学活での意見交換』では、自分の学級に対して帰属意識が高く自分の学級を誇りに「学校が楽しい」「困っている人を助けたい」「友達と協力する」に対しては、どれも肯定的な回答が大半を占め、学校生活の安定と充実と捉えることができる。

また、自ら（考えや意見等）を表現することに対して苦手意識があり、躊躇する傾向があることもわかった。自分への自信のなさが影響していると考えられる。

部活動に関しては入部率と本市部活動指針の影響も少し見られる結果となった。

【家庭】

家庭での生活（読書時間、学習時間、手伝い、など）については、自主的に行動する傾向が少ないこともわかった。特に新聞の購読率はとても低く時代の流れを感じさせる。また、各家庭の蔵書数は他地域より高く、家庭が想像力や思考力を育むことのできる環境にあることもわかった。

地域のために何かをする気持ちや地域との関わりを感じている生徒は多く、地域の持つ教育力を伺うことができた。地域に育てられていることも事実である。家庭での過ごし方は、家で過ごしたり家族と出かけたり部活に参加したり、友人と遊んだりと多岐にわたるが、家庭がよい環境であることや自分の周りの人間との関係が良好であることがわかる結果となった。